

十和田の火山活動解説資料（令和2年2月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2、図3）

今期間、御鼻部山^{おはなべやま}の西約4kmで地震が発生し、地震の最大規模はマグニチュード2.1でした。この地震の発生前後を含め、火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 十和田 中湖周辺の状況（2月15日）

・銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年3月分）は令和2年4月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

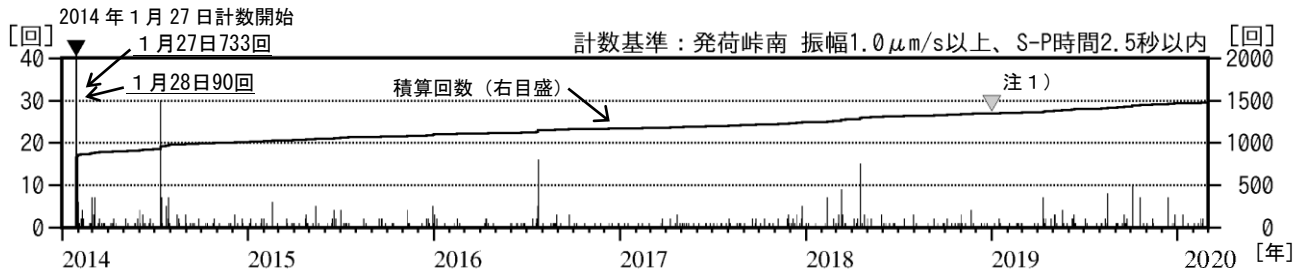


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2020年2月）

- ・ 計数基準の変遷は次のとおりです。
 計数開始 2014年1月27日～ 防災科学技術研究所小坂観測点 振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
 注1 2019年1月1日～ 発荷峠南観測点 振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2.5秒以内

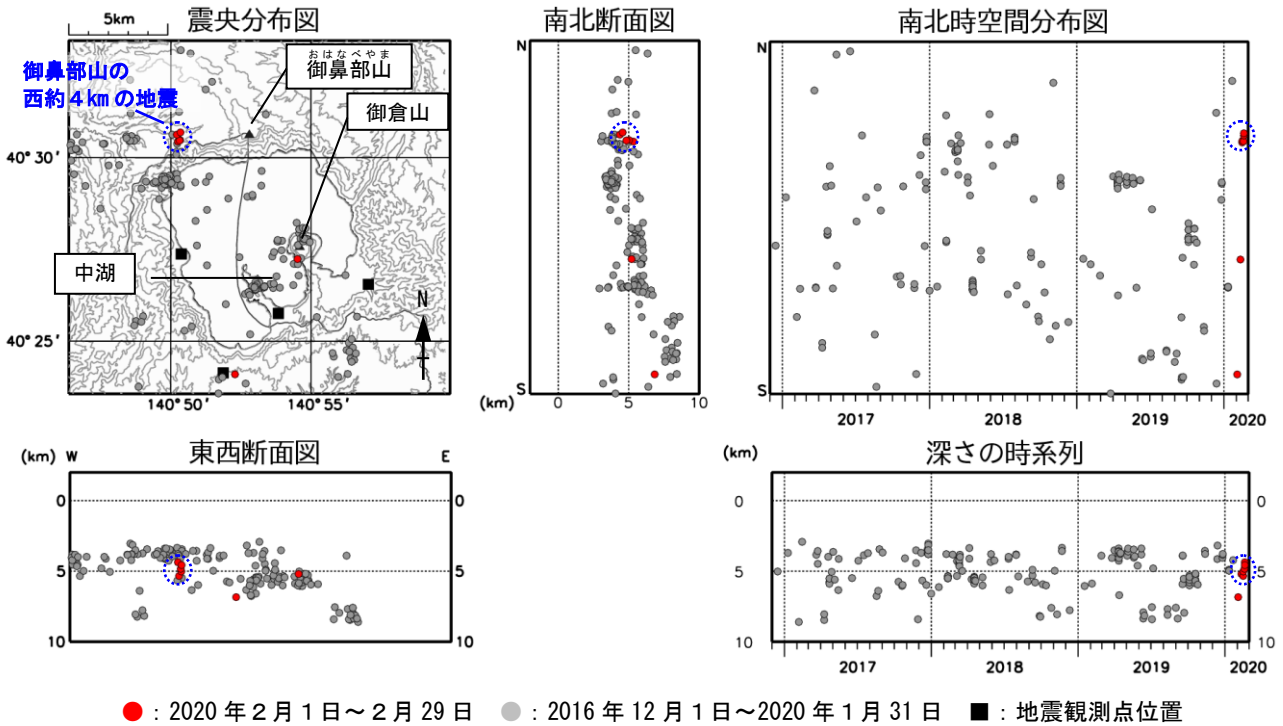


図3 十和田 地震活動図（2016年12月～2020年2月）

- ・ 今期間、御鼻部山の西約4km（青破線）で地震が発生し、地震の最大規模はマグニチュード2.1でした。
- ・ 震源決定には図5右の地震観測点も使用しています。

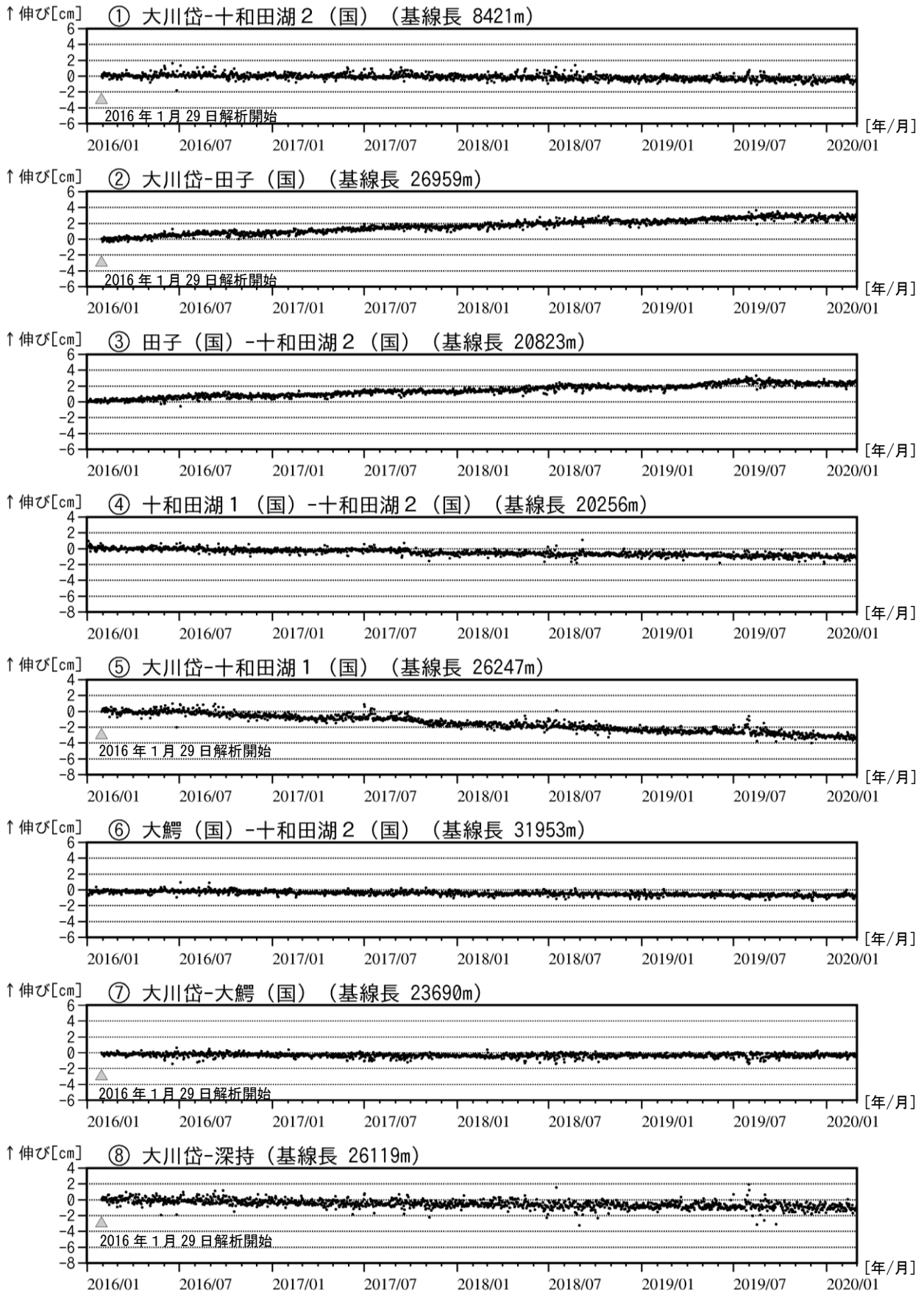


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2016年1月～2020年2月)

- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

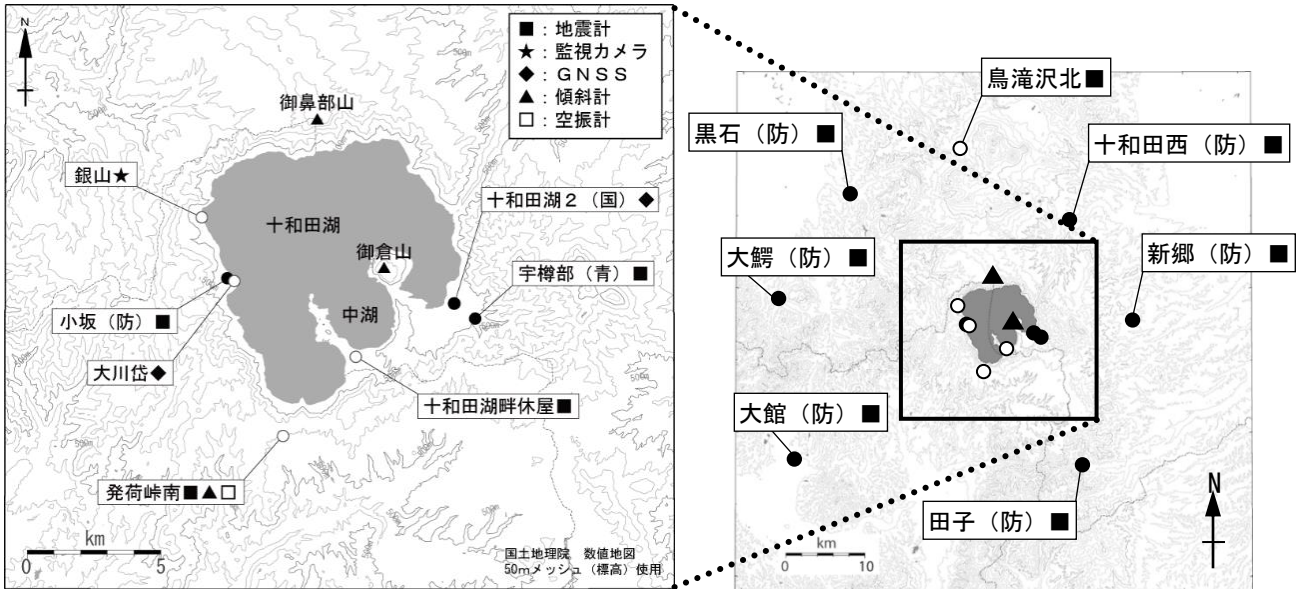


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

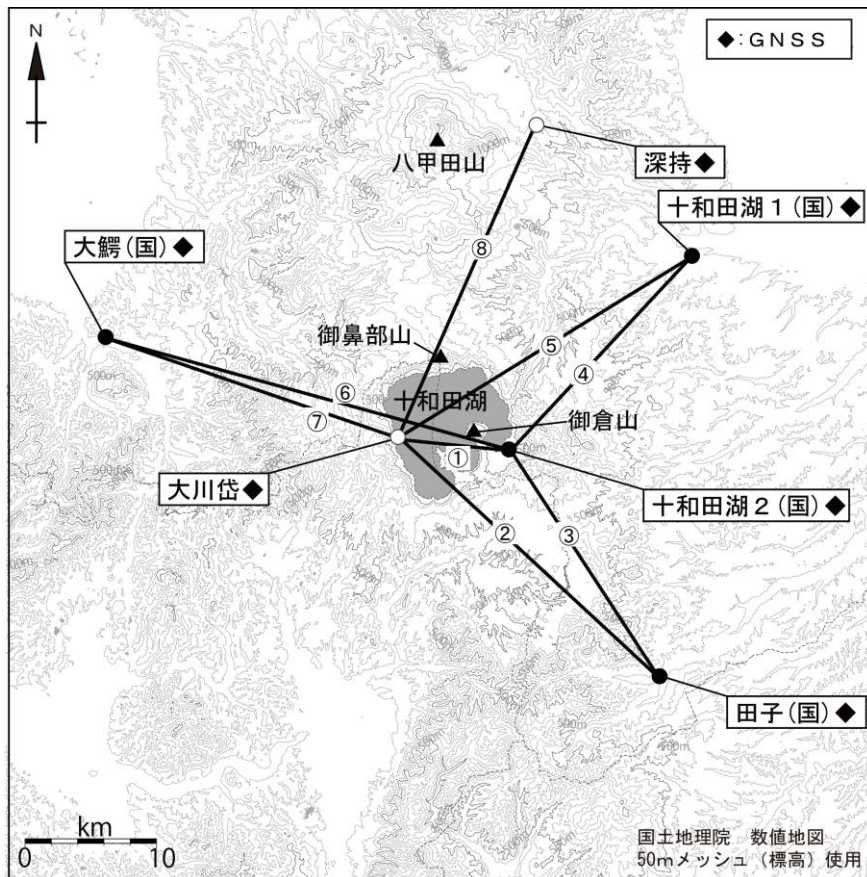


図6 十和田 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院